

エムポックスってどんな病気??

どんな病気?

- ・エムポックスはエムポックスウイルスによる感染症です。
- ・発生状況は、世界では2022年5月以降、主に男性間での性的接触を行う男性（Men who have sex with men: MSM）を中心とした国際的な流行が発生し、2023年以降はコンゴ民主共和国を中心としてアフリカ地域での流行が報告されました。
- ・都内では2022年に初めて患者が報告され（5件）、2023年168件、2024年14件、2025年9月末時点で2件の報告がありました。
- ・エムポックスウイルスは、現在大きく分けて2つ遺伝子型が報告されており、最近の専門機関の評価では、遺伝子型による致死率や感染・伝播性等の差は顕著ではなく、異なる対応を行う必要はないと考えられています。
- ・エムポックスの潜伏期間は6~13日（最大5~21日）とされており、発症すると、発熱、頭痛、リンパ節腫脹、筋肉痛などの症状が続く（前駆症状）、発熱1~3日後に発疹が出現します。近年では前駆症状がない事例も報告されています。
- ・エムポックスの症状（発熱や発疹等）は他疾患と区別が難しいため、検査によりエムポックスウイルスであることを確認する必要があります。

どうやってうつるの?

主に、感染した人や動物の皮膚の病変、体液、血液に触れた場合（性的接触を含む）や、患者と近くで対面し、長時間の飛沫（ひまつ）にさらされた場合、患者が使用した寝具等に触れた場合などに感染します。

治療法はあるの?

- ・多くの場合、発症から2~4週間症状が持続し自然軽快するものの、小児あるいは接触の程度、患者の健康状態、合併症などにより重症化することがあります。痛みが強い場合など症状に応じて緩和する治療を行うことがあります。
- ・国内では抗ウイルス薬テコビルマットが薬事承認され、特定の病院において治療体制が整備されています。

予防法はあるの?

- ・流行地では病原体を保有する動物（げっ歯類、サル等）や、感染者の体液との接触を避けることが大切です。
- ・天然痘のワクチンによって約85%発症予防効果があるとされています（相談は特定の病院に限られます）。

エムポックスを疑う症状があった場合はどうすればいいの?

- ・感染の不安がある方は、住んでいるところの保健所又はエムポックスの相談ができる医療機関にご相談ください。都内でエムポックスの相談ができる医療機関は右のQRコードからご確認ください。
- ・受診の際には、周りの人にうつさないように、飛沫が飛ばないようサージカルマスクを着用し、水疱を含む皮膚病変はガーゼなどで覆うなどの対策をした上で受診しましょう。

都内で相談のできる
医療機関はこちら



お問い合わせは
お近くの保健所へ

